

がん治療による放射線治療・抗がん剤治療は精巣や卵巣に大きな影響を与えます！ 将来の妊娠を希望される場合は、妊孕性温存療法をお勧めします。

抗がん剤治療・放射線治療は、精子や卵子に大きなダメージを与え、精子や卵子が全く無くなってしまふこともあります。

妊娠の可能性を残す妊孕性温存療法にはいくつかの方法があり、それぞれの方に合った方法で行います。詳しくは、主治医より妊孕性温存療法実施医療機関へご紹介のうえ、ご相談ください。

治療費の助成制度があります。

※ 令和3年4月から助成内容を拡充しました

妊孕性温存療法は自費診療であり、これからがん治療でお金がかかる状況では大きな負担になります。

三重県では、がん治療前に妊孕性温存療法を受けの方に対して治療費の助成を行っています。

申請方法等、詳しくは三重県ウェブサイト(三重県小児・AYA世代のがん患者等の妊孕性温存療法研究促進事業のページ)をご覧ください。



<https://www.pref.mie.lg.jp/KODOMOK/HP/m0330400068.htm>

- ・妊孕性温存療法は自費診療になります。
- ・方法により金額が異なるため、詳しくはご相談ください。
- ・がん治療の担当医から、妊孕性温存療法実施医療機関への紹介が必要です。
- ・急を要する場合には、まず電話などでご連絡ください。
- ・以下のホームページをご参照ください。



三重がん生殖医療ネットワーク

検索

問合せ先

【治療に関すること】

三重がん・生殖医療ネットワーク
(三重大学医学部附属病院産科婦人科
高度生殖医療センター内)

〒514-8507 津市江戸橋2丁目174番地

TEL：059-232-1111 (病院代表)

診察日：月曜日～金曜日

【助成に関すること】

三重県子ども・福祉部子育て支援課

〒514-8570 津市広明町13番地

TEL：059-224-2248

「がん治療」の後にも 子どもを授かるために

将来子どもをもつことを望む方のための
治療があります。

お1人で悩まずに、気軽にご相談ください。

にんようせい
妊孕性温存療法についてご存じですか？

今しかできない治療になります！



抗がん剤治療



放射線治療



がんになった場合、抗がん剤治療や放射線治療を行うこととなります。これらの治療の中には、卵子や精子への影響が大きいものがあります。将来に子供が欲しい場合は、がん治療前に妊孕性温存療法について考えないといけません。治療前に、専門施設へご相談ください。

にんようせい
《妊孕性温存療法について》

妊孕性温存療法は、男性は精子凍結になります。女性に関しては、既婚者であれば胚凍結及び卵子凍結が可能です。未婚者であれば卵子凍結が可能です。がん治療実施までの時間が短い場合や、希望がある場合には、卵巢凍結が可能です。いずれも専門施設で実施します。

- 精子凍結…マスターベーションで採取した精子を凍結する。
- 卵子凍結…採卵した状態の卵子で凍結する。
- 胚凍結…卵子と精子を受精させた後に凍結する。
- 卵巢凍結…片側の卵巢を摘出し、凍結保存を行う。

